専修大学
神田神保町二丁目
神田神保町一丁目
靖国通り
専大前
集英社神保町3丁目ビル
さくら通り
サクラホテル神保町
野本歯科医院
神保町
神保町101ビル
白山通り
本と街の案内所
駿河台
駿河台下
明大通り
小川町郵便局
小川町三丁目
千代田通り
ミツワ小川町ビル
五十稲荷神社
共同ビル
共立女子短期大学
集英社神保町3丁目共同ビル
千代田区立神田一橋中学校
小学館ビル
九段第2合同庁舎
九段合同庁舎
内堀通り
100 m
Tre Cubi Fontana Di Danae
Leaflet | © OpenStreetMap contributors
Senshu University Library
BOOK LOVERS
千代田図書館のイベント
「はじめての神保町街あるき」に参加して
千代田図書館のコンシェルジュさんに
神保町の魅力を教えてもらったよ

①学士会館

学士会館は、旧帝国大学（※現在の国立七大学）出身者の交流の場として
つくられました。
2003年1月には、国の有形文化財にも登録されています。
また学士会館は、２つの発祥の地となっています。
ひとつ目は、東京大学発祥の地です。東京開成学校と東京医学校が合併して、
東京大学が創立され、現在の学士会館のある場所に校舎が建設されました。
ふたつ目は、日本野球発祥の地です。ホーレス・ウィルソン氏がこの地で
野球を教えたことが始まりとされています。記念碑には日本とアメリカの
国旗が縫い目で結ばれており、野球の国際化を表現しています。

※国立七大学：北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学

②小学館本社

神保町は、出版社の本社が多く集まっています。
大政奉還が起こるまで、神保町には武家屋敷が多くあったそうです。
明治時代になると、武家屋敷がなくなり、空き地ができたことから、
そこに大学が建てられていきました。
大学のまわりには学生が集まり、学生たちは、教科書や本を買い求める
ようになります。当時の本は、現在と異なりかなり高価だったそうです。
学生たちは読み終わった本を売って新しい本を買っていました。
そのため、本を売って新たな本を買うという流れができ、古書店が増え
ていったそうです。岩波書店や三省堂書店も、創業当時は古書店でした。

③山形屋紙店

山形屋紙店は宮内庁御用達の紙屋さんです。
店舗の裏には、紙を保存する蔵があり、関東大震災や第二次世界大戦でも損傷せず、そのままの形で現在まで残っています。
和紙は乾燥しているほど、墨ののりがいいとのことで、湿気の少ない蔵で紙を保存しているとのことです。
扇型の中に一の文字が書かれた屋号紋については、お店の方も正確な由来は不明とのことでしたが、昔は扇や傘などに紙を張るために、その形に切った紙のことを「じがみ」と言っていたこと、紙問屋のことを「じがみうり」と言っていたことから、「じがみいち」＝紙問屋の中で一番になるという思いが込められているのではないかとのことです。

③神保町さくら通り

神保町という名前の由来は、戦国大名 ・ 越中神保氏 の一族である
旗本・神保長治 の屋敷があったことに由来します。
神保長治 の屋敷があった場所は、神保町さくら通りの山形屋紙店と
有斐閣のあたりだそうです。
現在の、さくら通りがメイン通りの「表神保小路」と呼ばれ、
靖国通りは、「裏神保小路」と呼ばれていたそうです。

④矢口書店

こちらの建物は、看板建築様式で昭和3年に建てられました。
看板建築とは、関東大震災後に立てられるようになった建築様式で、
建物の正面だけを銅板やモルタルなどの耐火素材で装飾し、
看板を兼ねた外壁とした店舗兼住居です。
昭和50年に日本建築学会大会で発表されてから、「看板建築」という言葉が専門用語になりました。
神保町には看板建築の建物がまだ多く残っています。

⑤神田古書センタービル

神田古書センタービルは、店舗案内の看板を見るとわかる通り、
ひとつのビルに様々なジャンルの古書店がはいっています。
神保町の様々な場所で配布されているJIMBOCHO古書店MAPでも古書店はジャンルごとに色分けされており、その種類の多さがよく分かります。
こちらのビルには、ボンディという有名なカレー店も入っています。
神保町は学生が多く、また本を読みながら片手で食べられることから
カレー店が増えたと言われています。
御茶ノ水駅あたりまで含めると、神保町周辺に300店ほどのカレー店があります。

⑥新世界菜館

神保町は、カレー店の店も多いですが、
それに負けないくらい、中華料理店も多い町です。
なぜこんなに中華料理店が多いのかというと、明治初期、中国の
留学生が神保町に多く住んでいたためと言われています。
チャイナタウンとも呼ばれていたそうです。
新世界菜館は中華料理店ですが、カレーも食べることができます。
新世界以外にも、すずらん通りの揚子江菜館や漢陽楼も神保町に
古くからある中華料理店です。

⑦一誠堂書店

建物は、アールデコ様式で、昭和6年に建てられました。
入口にあるステンドグラスは、当時のままのものが残っています。
神保町は、古書店という同業者のお店が並んでいる世界でも珍しい街です。
一見すると古書店同士はライバル関係にあるように思えますが、お店同士の繋がりが強いそうです。
一誠堂書店店主の方は、古書店が街に集まれば、人が集まり、お店にとっても好循環が生まれるとお考えでした。
一誠堂書店で修業を積んだ方が独立して作ったお店が神保町で10店舗できていて、古書店の学校のような役割も果たされています。

⑨ランチョン

ランチョンは神保町の老舗ビアホールです。
２階の窓からは、各古書店の看板を見ることができます。
ランチョンの隣のサイゼリヤがあるビルには、昔は神田日活館がありました。
なんと、宮沢賢治も上京した際、こちらの映画館で映画を見たといわれています。
その頃の映画は、今のような映画ではなく無声映画でした。
無声映画を上映中には、活動弁士という解説者が画面の傍らで、その内容を解説していたそうです。

⑩ラドリオ

ラドリオは、昭和20年創業の喫茶店です。
ラドリオという言葉は、スペイン語でレンガという意味で、
レンガ造りの建物となっています。
こちらは、コーヒーの上に生クリームをたっぷり乗せるウィンナーコーヒーを日本で初めて提供したお店だと言われています。
文豪たちがコーヒーを片手に議論をしているうちに、熱いコーヒーが冷めてしまうことから、店主の気遣いで、コーヒーが冷めないように生クリームで蓋をしたのが始まりとのことです。

⑩ミロンガヌオーバ

ミロンガヌオーバはタンゴ喫茶です。
以前は、ミロンガヌオーバの2階にはユリイカを出版していた
出版社書肆ユリイカがありました。
昔は、表から2階に上がる13段の階段があったそうで、
現在もその名残を確認することができます。

⑪玉英堂書店・東陽堂書店

玉英堂書店は、稀覯本という珍しくて貴重な資料を多く扱う古書店です。2階の特選ルームでは、文豪直筆の原稿を見ることができます。
お隣の東陽堂書店を見ると、店内の値札に黄色の色紙が使用されているのが見えます。これは、色紙の色あせ具合で、仕入れてからどれくらい店内にあるかわかるようにしているとのことです。

⑪大屋書房

大屋書房は、江戸時代の資料を多く扱う古書店です。
店頭の掛け軸は、その時々で店主が選び飾っているとの
ことです。
正面の看板には、市川團十郎の、歌舞伎十八番 暫（しばらく）
の場面が描かれています。
「しばらく、どうぞ立ち止まってごらんください。」
という意味を込めて飾られているそうです。

⑫駿河台交差点

駿河台から先は多くのスポーツ用品店が立ち並びます。
神田・神保町は大学が多く集まる街として、
神保町は古書店、小川町はスポーツショップ、
御茶ノ水は楽器店が多くなっています。
ガードレールの看板も神保町は本と羽ペンのマークですが、
駿河台のあたりはスキーや野球マークになっています。

⑬文房堂

文房堂は、創業130年以上の老舗文房具店です。
建物が立った翌年に関東大震災がありましたが、当時では珍しい鉄筋の建物だったため損傷が少なかったとのことです。
創業者、池田治朗吉と丸善の創業者、早矢仕有的は遠い親戚にあたり共に福沢諭吉の門下生でした。
福沢諭吉は西洋文化を奨励し丸善には西洋文化、言葉(書物)を、文房堂には西洋美術(画材)の輸入販売を勧めたことから事業が始まったとのことです。
店のロゴマークは創業者と文房堂のイニシャルが組み合わさった形になっています。
現在、作家の原稿用紙を復刻して販売をされています。

⑭はちまき

はちまきは、昭和6年創業の文豪たちが集った天ぷら店です。
創業当時は神田駅前に店舗がありましたが、昭和20年に神保町に移転してきました。
二七会と言って、毎月27日になると文豪たちが集まる会が開かれ、井伏鱒二、江戸川乱歩、吉川英治などが参加していたそうです。
創業当時からの味が引き継がれ、文豪たちが食べていた味を楽しむことができるお店です。

⑮冨山房

冨山房という出版社のビルには、屋根の部分に本の背表紙が3つ並んだモチーフが飾られています。
以前の冨山房のビルは、こちらの本のモチーフが多く並んでいた建物でした。
その一部を現在のビルに移築したそうです。

⑯本と街の案内所

神保町すずらん通り「小学館ギャラリーBH神保町」内にある
神保町古本街のインフォメーションセンターです。
案内所にはパソコンが設置してあり本屋はもちろん、アート、
グルメなどを検索することができます。